

“I don't know” と自分の位置

副学長 柴田正良

新入生のみなさん、入学おめでとうございます。

ある外国人の学長がみなさんと同じように大学の新生だった頃、別の大学の学長だった父親に、こう聞いてみたそうです。「いままでで一番難しかった答えは何?」。「I don't know」。「えっ、お父さんは何でも知っていたの?」。「いや、そうじゃない。答えるのに一番難しいのは、自分の知らないことをはっきり「知らない」と言うことなんだ」。

「無知の知」という、この本質的にソクラテス的な態度は、私たちが年を重ね、知識を増やしていけばいくほど、素直に維持することができなくなるものです。恥や見栄や自信が、知らず知らずのうちに自分たちの眼を曇らせ、知らないことを「知っている」と思い込ませ、「真の知」の獲得を妨げてしまうのです。ですから、大学に入ってまずみなさんに求められるのは、この知の「自己欺瞞」とでも言うべきものを振り払うことです。そして、自分が本当に知っているのは何かということに、真摯に向き合うことです。

金沢大学が卒業時のみなさんに保証する知識・能力を、「金沢大学グローバル・スタンダード」と言いますが、ここでは、その中の一つだけを述べましょう。それは、地球の誕生から現代に至るまでの時間軸と、世界全体の地勢における日本や金沢という空間軸の中で、自己の占める位置を正確に把握する能力です。このことが必要なのは、私たちの存在が家庭や大学や街の中に閉じたものではなく、否応もなくヒトや国民としての歴史を背負い、アジアの隣人やもっと遠くの友人たちとの相互関係に巻き込まれているからです。だから、抽象的な「自己」などというものは存在しません。みなさんが何を目標として進んでいこうと、出発点は常に、時代と世界の中に埋め込まれた「みなさん自身」でしかないので。

世界における自分の位置を真に知るならば、大きく言えば、人類の一員として何が自分たちに課せられた責務であるかが見えてくるでしょう。また、小さく言えば(?)、自分たちの仲間の一人として何を期待されているのかが分かるでしょう。それは想像の力を介して、みなさんの行動に指針を与えるものです。もちろん、それを知るだけで卒業後に何をなすべきかが決まるわけではありません。しかし、それを知らなければ、みなさんは羅針盤のない船のようなものです。未来の大洋を航海するのに、この羅針盤の他に何が必要でしょうか? しかしそれが何であれ、みなさんが切実に探し求める限り、それもまた金沢大学の「学び」の中に見いだすことができるでしょう。

知は力なり。その知に、想像力が翼を与える。